

## 平成28年度 第1回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

平成28年6月30日（木）15時00分から、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その議事内容について公表します。

（議事内容）

○場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80

○出席者 委員：20名 オブザーバー：25名 計45名

○議事次第

協 議 (1) 平成27年度事業報告（案）・収支決算（案）について（監査報告）  
(2) 平成28年度事業計画（案）・収支予算（案）について  
(3) 規約の一部改正（案）について

説 明 (1) 「第2期秋田市中心市街地活性化基本計画」草案について  
(2) 「芸術文化ゾーン」(案)について

報 告 (1) JR 秋田駅周辺の活性化に向けた取組みについて  
(2) 川反外町振興会「商店街インバウンド促進支援事業」について  
(3) 大町さきがけ跡地商業施設整備構想の進捗について  
(4) 秋田市中心市街地商店街等会長会議の実施結果について  
(5) ミュージカル 新「リキノスケ走る！」公演について  
(6) 「ギュギュっとあきた週末イベントリレー」について

○結果報告

【三浦会長の開会挨拶】

本日はお忙しいところ、ご出席いただきありがとうございます。今年度第一回目の協議会ということで、昨年度の事業報告・決算、今年度の事業計画・予算案等について、ご協議いただきますのでよろしくお願いいたします。

前回3月の協議会以降、6月3日～5日には、中心市街地のにぎわい創出と交流人口の拡大を目的とした「食と芸能大祭典」が初開催され、想定を上回る12万9千人の方々が来場し楽しんでいただきました。中心市街地にあれだけの人の波が押し寄せたのは、昨年東北六魂祭をも勝る状況にあり、今後、初夏の大型イベントとして定着させ、県外を含めた観光客の呼び込みにも尽力したいと考えております。

さて、第2期秋田市中心市街地活性化基本計画の策定に向け、作業は中盤に差し掛かっております。前回の協議会では、秋田市より計画の骨子が提示されましたが、本日はその後の検討を踏まえた草案が示されることとなっております。

また、これまで中心市街地に点在している施設を包括的に捉え、各施設の特徴を生かしながら市民が憩い、活動できる空間の充実を図る「芸術文化ゾーン」の考え方についてもご説明させていただきます。

一方、民間においても、JR秋田駅西口駐車場の建替えならびに秋田駅の観光拠点化に向けたリニューアルをはじめとして、各商店街でも新たな事業への取り組みが表面化してきております。

また、今年度に入り「中心市街地商店街等会長会議」が2度開催されており、「県市連携大型文化施設の整備」等様々な変化が想定される中、来街・回遊環境についても議論されております。

こうした状況を踏まえ、本日は草案をご説明いたしますが、9月の協議会には計画原案を示し、10月の市議会説明、年度内の内閣府認定に向け進んでいく予定となっております。ご臨席の皆様からは、忌憚のないご意見をいただきますようお願い申しあげ、ご挨拶とさせていただきます。

#### 【委員紹介】

人事異動等により執行者に変更があった団体について紹介した。新任者については次のとおり。

- ・公益財団法人秋田市総合振興公社 総務課長 大井 晋 様
- ・東日本旅客鉄道株式会社秋田支社 執行役員秋田支社長 菊池 正 様
- ・秋田中央交通株式会社 代表取締役社長 渡邊 綱平 様
- ・久保田城址歴史ボランティアの会 会長 小国 裕実 様

#### 【内 容】

##### 協 議

討議に入り、まずは(1)平成27年度事業報告(案)・収支決算(案)について事務局から説明。年間3回の協議会を実施し第2期秋田市中心市街地活性化基本計画策定の進捗について確認したほか、中心市街地商店街の動きについて情報共有を図った旨を説明。また、収支決算(案)については先進地事例視察未実施分等が平成28年度に繰り越しとなる旨事務局から説明後、戸田監事より監査報告があり、原案通り承認された。

次に(2)平成28年度事業計画(案)・収支予算(案)について事務局から説明。今年度は第2期中活計画の申請及び認定を目指していることから、4回の協議会を開催し検討を進めていく計画であること、中心市街地への来街・回遊環境等を検討するため中心市街地商店街等会長会議を実施していくことの説明があったほか、長野市への先進地視察実施や、川反通り案内サイン設置事業をはじめとした「まちなかプロジェクトチームトライアル事業」の受託、新規事業として実施する「中心市街地商店街環境整備支援事業」等についても説明し、原案通り承認された。

次に(3)規約の一部改正(案)について事務局から説明。マイナンバー制度の導入に伴う源泉徴収等の事務手続きに関しては、秋田商工会議所の規則に準じて取り扱いを行う旨の条文を追加。原案通り了承された。

##### 説 明

(1) 「第2期秋田市中心市街地活性化基本計画」草案について、秋田市都市整備部都市総務課の根田課長より説明があった。

基本コンセプトについては「千秋公園（久保田城跡）と連携した城下町ルネッサンス（中心市街地再生）～新たな市民文化をはぐくむ多世代が交流する賑わい拠点の形成～」として設定。

これを実現していくためには上位関連計画である「第13次秋田市総合計画 新・県都あきた成長プラン」との整合性を図りながら「新たな魅力の創出による交流人口の増加」、「快適な居住環境の形成による街なか居住の推進」、「都市機能集積や市民力によるまちの活力向上」といった3つの課題を解消していく必要がある。

そのため、「多様な人々が行き交い、新しい文化を育む舞台の形成」、「快適な居住環境の形成と既存ストックの有効活用」、「店舗を主とした事業所の立地促進と市民活動の推進」といった3つの基本方針を設定する。

目標を「行きたい街、住みたい街、活力ある街」の実現とし、達成度については「歩行者・自転車通行量(平日・休日の平均)、芸術文化施設利用者数、居住人口、創業・起業支援事業利用件数、公共施設利用件数」を基に判断していく方向性である。

また、中心市街地の区域設定については、歴史的象徴である千秋公園（久保田城跡）や都心部の中心的商店街など、秋田市および秋田広域都市圏の中心的な都市機能が集積していることや、用途地域が主に商業地域であり、土地の高度利用が期待されている区域であり、中心市街地活性化に向けた各種事業が数多く実施または計画されていることから、JR秋田駅周辺から大町、川反外町方面に至る約115haとする。

次に、(2)「芸術文化ゾーン」(案)について、秋田市企画財政部企画調整課の齋藤課長より説明があった。

現在策定中の第2期秋田市中心市街地活性化基本計画で定める区域のうち、広小路・仲小路からエリアなかいちを経て、中土橋・千秋公園に至るまでを「芸術文化ゾーン」として設定。千秋美術館や県立美術館など既存文化施設との連携や「エリアなかいち」との回遊性確保により、千秋公園周辺のイメージを「芸術文化の香り高い」地域として確立するとともに、JR秋田駅前や大町・通町との動線にも配慮し、中心市街地の活性化、そして本市の一層の魅力向上につなげていく構想である。

本市総合計画の基本理念「ともにつくり ともに生きる 人・まち・暮らし」を踏まえ、「芸術文化ゾーン」において、市民・民間事業者（商店街・民間企業・NPOなど市民活動者等）と行政が連携することで、市民が日常的に集い、活動し、暮らしの豊かさを実感できる場として充実させていくものとする。

#### 【出された意見】

木内委員（秋田まちづくり株）

計画の認定に際して、内閣府から各指標の設定についてはどのようにして判断されるのか。

根田課長（秋田市都市整備部都市総務課）

各市町村によって状況が異なるため、特段の基準はない。内閣府が各指標について妥当なものであると判断するのではなく、申請市町村が、それぞれの抱えている課題に対してこの指標を持って賑わい創出となった、または活性化したと判断したいというのが基準となる。当然、その指標を実現するための各種事業が備わっていることが条件である。

木内委員（秋田まちづくり株）

芸術文化ゾーンについて質問したい。第1期の中活計画から今までは単体の構造物を造る事業が主体であったが、ここに来てそれらを連携させる構想が示され、大変良いことだと捉えている。

しかしながら、「行政と民間が連携して取り組む」というが、「具体的には誰が」やるのか。にぎわい交流館AUと新県立美術館さえも現在うまく連携ができていたとは言い難い。ハード部分で連携するのかソフト部分で連携するのかを突き詰めていかないと、実現が難しいと思う。

アイデア自体はすばらしいものであり、期待しているので、粘り強く取り組んで行って欲しい。

新開委員（仲小路振興会）

平成18年と平成26年の観光客入込数の比較資料があるが、秋田ポートタワーセリオンの入込数が10倍以上になっている理由を教えてください。また、千秋公園への観光客入込数が平成20年から見ると平成26年は半減となっているが、この理由についても教えてください。

根田課長（秋田市都市整備部都市総務課）

秋田ポートタワーセリオンについては、集客力がある「道の駅」に認定されたことが大きな要因である。千秋公園については、つつじ祭りや桜まつりの来場者には大きな変化がないということまでは把握しているため、敷地内および近隣施設の影響があると考えられるが、詳細については把握していない。

木内委員（秋田まちづくり株）

バス利用者については資料を見ると増加傾向にあるようだが、ワンコインバス事業の効果はあるとしても、この結果を踏まえてもう少しバス利用が促進されるような施策を検討すべきだと思うがどうか。

根田課長（秋田市都市整備部都市総務課）

秋田市では3月に第2次秋田市公共交通政策ビジョンを策定しており、その中でバス利用についても触れている。

あくまで中心市街地活性化の観点から申しあげると、まず一つ目はワンコインバス事業により高齢者の利用が増加している現状を踏まえ、これを何とか活性化に繋げられないかという点である。市民アンケートでも「集える場所が欲しい」という要望が多く、継続した検討が必要である。

二つ目は、利便性の向上である。秋田市バリアフリー基本構想に基づき、利用者の多い鉄道駅周辺などを重点整備地区に定め、高齢者や障がい者等の公共交通を利用して移動する際の安全性や利便性の向上を図っていくほか、ICカードの導入による利便性の向上も検討していることを報告申しあげる。

木内委員（秋田まちづくり株）

中心市街地活性化基本計画というのは、中心市街地への来街者を増加させることが目的の一つであって、中心市街地から郊外へ流出させるのが目的ではないと認識している。そういった中で例えば広小路・中央通りの一方通行がその障害になっているのだとすれば、交通環境も含めて検討が必要ではないかと考える。

高橋委員（秋田大学）

芸術文化ゾーンについてだが、本日は小杉委員が欠席しているので代わりに申しあげるが、公立美術大学との連携についてはどのような考えをお持ちか。

根田課長（秋田市都市整備部都市総務課）

公立美術大学については、芸術文化を推進していくうえで是非連携を取りたい先であると考えている。まだ具体的には動いていないが、現在はフォンの6階ではサテライトセンターとして作品を展示していただいている。また、あきたアートプロジェクトでは、中心市街地も含めた秋田市の芸術文化推進のため、様々なイベントを実施していただいている。

こういった現状を踏まえ、9月の原案作成までには何らかの連携手段を検討していきたいと考えている。

齋藤課長（秋田市企画財政部企画調整課）

県市連携文化施設の整備を前提とした旧県立美術館の利活用について秋田市では現在検討中であり、教員の方々とも実際に話し合いは行っている。その中では、4年制化により生徒数が増え、卒業制作展等の作品を発表する場が不足傾向にあるため、芸術文化ゾーン内の各施設を使用できないかといった意見があった。

また、先ほど根田課長から説明があった「あきたアートプロジェクト」について将来的にもう少し規模を拡大した芸術祭として実施できないか秋田市で検討中である。この場でいつの開催とまでは申しあげられる状態にはないものの、公立美術大学とは実行委員会としての連携や講師の招聘等連携できる部分は数多く出てくると考えているので、ご協力をいただきながら実現させたいと考えている。

佐々木委員（NPO法人 秋田バリアフリーネットワーク）

中心市街地の設定区域に人為的なものを感じるが、この区域に限定した理由を伺いたい。

根田課長（秋田市都市整備部都市総務課）

いろいろ検討を重ねたが、基本的には第1期中活計画とほぼ同様の設定区域となっていることをご理解いただきたい。境界線に関しては商店街で区切っている箇所もあれば、道路で区切っている箇所もあるが、特別な事情があって人為的に設定したものではない。

佐々木委員（NPO法人 秋田バリアフリーネットワーク）

居住者アンケート調査や低未利用地アンケート調査について報告があったが、他の市町村では社会問題化しつつある「空き家」についてはデータがないようだが、把握しているか。

**根田課長（秋田市都市整備部都市総務課）**

平成25年度のデータであるが、中心市街地内の空き家は20件あると認識している。マンションについては200部屋以上の空きがあり、空地については13ha、大きな空きビルについても大体の状況は把握している。

**高堂委員（大町商店街振興組合）**

芸術文化ゾーンのタイムスケジュールは決定しているか。

**齋藤課長（秋田市企画財政部企画調整課）**

中活計画と並行して、秋田市としても共同で地元の方と意識共有をし、考え方を根付かせることが重要と考えているため、タイムスケジュールという概念はない。今後商店街団体やその会員店についても説明にお伺いしたいと考えているので、ご協力いただける部分があれば是非お願いしたいと考えている。

**報 告**

(1) JR 秋田駅周辺の活性化に向けた取組みについて、東日本旅客鉄道株式会社秋田支社の松本部長より説明があった。内容としては現在 109 台駐車可能である 2 階建ての西口駐車場を 4 層 5 段に増強し約 270 台の収容とすること、現在は駅から離れた場所にある駅レンタカーを 1 階に併設し2次交通の強化を図ること、自由通路に面して新たな店舗を設置し賑わいを連続させること、県都の玄関口として相応しい外観およびファサードとする等。その他、待合ラウンジやびゅうプラザ・みどりの窓口、飲食物販店のリニューアルによる観光拠点化（秋田美術大学 小杉准教授と連携）についても説明があった。

次に、(2) 川反外町振興会「商店街インバウンド促進支援事業」について、川反外町振興会の長澤会長から説明があった。平成27年度補正「商店街・まちなかインバウンド促進支援事業」の採択を受け、多言語サイトの運営、共通チケットの販売や観光案内所の整備に着手する。事業完了は平成29年1月末を予定。

次に、(3) 大町さきがけ跡地商業施設整備構想の進捗について、大町商店街振興組合の高堂理事長から説明があった。現在は第2期中活計画への事業掲載を目指し、中小企業基盤整備機構からのプロジェクト型支援を受けながら事業計画等について検討中。7月からはニーズ調査、マーケット調査に着手予定。

次に、(4) 秋田市中心市街地商店街等会長会議の実施結果について、事務局から報告。2回に渡り実施した「中心市街地商店街等会長会議」での意見を基に、広小路・中央通りの一方通行見直しについては、様々な環境の変化に鑑み、今後の課題として施設整備と並行して調査検討を進めていく必要があるとの認識を協議会全体で共有した。

最後に、(5) ミュージカル 新「リキノスケ走る！」公演についておよび(6) 「ギュギュっとあきた週末イベントリレー」について事務局から一括で説明した。

閉 会